



プロジェクト名: 産業DXのためのデジタルインフラ整備事業

(うち研究開発項目④ サプライチェーンマネジメント基盤に関する研究開発

研究開発項目⑤ 人・ロボット・システムを有機的に結合するスマートビル基盤に関する研究開発

研究開発の目的

- ・我が国はシステム相互連携が進まず、DXの遅れが顕在化。
- ・5年後10年後の社会を見据え、企業や業種をまたいだデータ連携を円滑に行うことができるデジタル基盤の構築や、複数のシステムが連携した際のシステム全体の安全性や信頼性の向上は重要な課題。
- ・本事業では、そのようなデジタルインフラ整備の対象として、2022年度より、①3次元空間情報基盤、②次世代取引基盤、③システム全体の安全性確保、の3つのテーマを推進。2023年度より、④サプライチェーンマネジメント基盤、⑤スマートビル基盤、の2つのテーマを追加し、その社会実装に向けた技術開発や有効性検証等を実施。

研究開発の内容

研究開発項目④ サプライチェーンマネジメント基盤に関する研究開発

・サプライチェーンマネジメントに係るデジタル基盤について、企業・業種横断的な基盤となるよう拡張性に留意しながら、喫緊のニーズの高い自動車(車載用蓄電池、半導体)に対する適用を念頭に具体化する。具体的には、事業者・事業所・商材の識別子や関連データのデータモデルの標準化、そうしたデータを連携するためのインターフェース/検索機能の開発、データを共有する範囲・粒度に関するルール整備、データトラスト・データガバナンスに係る検討及びそれらの有効性検証を行う。

研究開発項目⑤ 人・ロボット・システムを有機的に結合するスマートビル基盤に関する研究開発

・スマートビルに係るデジタル基盤について、業界横断で多数のシステムが繋がるシステム全体のアーキテクチャを設計しながら、データモデルの標準化や、そうしたデータを連携するためのインターフェース/検索機能の開発、そして、データを共有する範囲・粒度に関するルール整備、データトラスト・データガバナンスに係る検討及びそれらの有効性検証を行う。

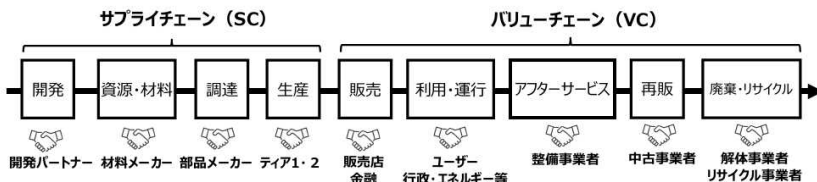
プロジェクトの規模

※拡充する研究開発項目④、⑤の分を記載

- ・事業費総額 16億円(予定)
- ・NEDO予算総額 11億円(予定)
- ・実施期間 2023～2024年度(2年間)

成果適用のイメージ

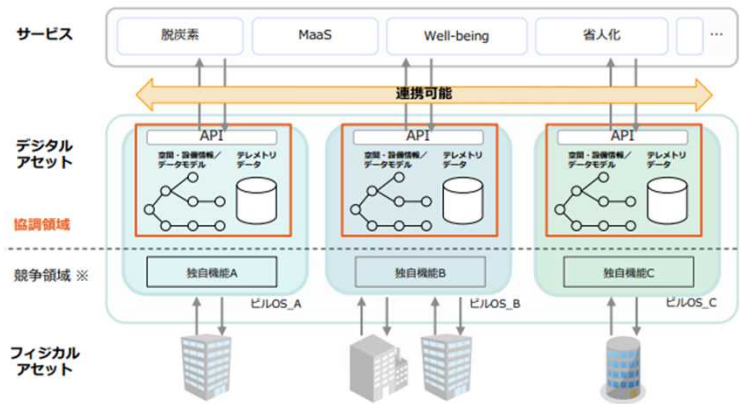
自動車のライフサイクルにおけるパートナーの例



- ・ライフサイクルのCFPの計算/効率的在庫管理
- ・未利用時間を活用した充放電ビジネス/シェアリングビジネス
- ・走行データを活用した保険・予防整備などの新しいサービス
- ・中古市場、リユース・リサイクル市場での活用

サプライチェーンマネジメント基盤のイメージ

(出典) <https://www.meti.go.jp/press/2022/07/20220701006/20220701006-a.pdf>



スマートビル基盤のイメージ

(出典) https://www.ipa.go.jp/dadc/architecture/pdf/pj_report_smartbuilding_doc-appendix_202209_1.pdf